

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費  
 5項 水産業費  
 2目 水産業振興費

水産課(内線:7309)  
 (単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
簡易魚道整備実験事業	772	841	△69				772	
トータルコスト	2,386千円(前年度2,498千円)[正職員:0.2人]							
主な業務内容	魚道設置検討会等における簡易・仮設魚道設置検討等							
工程表の政策目標(指標)	漁場資源の増産							
<p>事業内容の説明</p> <p><b>1 事業の目的・概要</b>                      アユ等の魚類の遡上を阻害している堰堤への簡易魚道等の設置の検討・提案を行い、魚類の資源回復を図る。</p> <p><b>2 主な事業内容</b></p> <p>(1) 簡易・仮設魚道の効果検証                      平成19年～21年度に設置・導入した簡易・仮設魚道のアユ遡上効果及び耐久性等の効果検証を引き続き行う。</p> <p>(2) 具体的な魚道改善策の提案(新規)                      今後改修計画のある堰堤(羽合堰、五千石堰)について、それぞれの堰堤に合った簡易魚道等の構造・設置方法について調査を行い、堰堤管理者に指導・助言を行う。                      ・委託費 610千円                      ・事務費 162千円</p> <p>(3) 魚道整備の検討                      各河川毎に設けた魚道設置検討会において、早急な魚道整備が必要と判断された堰堤については、各堰堤毎に堰堤管理者、漁協、市町村、県等による部会を設け、具体的な魚道整備の方法について検討する。</p> <p><b>3 これまでの取組状況、改善点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成17～18年の調査では、堰堤によるアユの遡上阻害がアユの不漁原因の一因であることが判明</li> <li>○ 平成18年の堰堤実態調査で、192の堰堤の内52の堰堤で、魚道が不備または魚道機能が不十分と判明</li> <li>○ 県が平成19年～21年にモデル的に簡易魚道及び仮設魚道を設置。簡易魚道及び仮設魚道の設置によりアユの遡上阻害が軽減されることが判明</li> <li>○ 平成22年度から、堰堤管理者などの地元主体による具体的な魚道整備について、堰堤管理者・漁業関係者・行政などにより協議を開始予定</li> </ul>								



千代川永野堰に設置した簡易魚道